

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット②)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100410		
法人名	社会福祉法人 河北会		
事業所名	グループホーム さくらぎ (ユニット②)		
所在地	〒020-0120 岩手県盛岡市高松3丁目13番15号		
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果市町村受理日	令和6年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様が、家庭的で安心できる雰囲気の中で、一人一人が役割を持ち楽しく暮らしていける様に支援しています。また、季節行事を取り入れる事で四季を感じて頂いている。地域交流をはかる事で孤立しない環境作りを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近辺に公園やスーパーなどがある閑静な住宅地に位置し、散歩などの外出支援がしやすい住環境にあり、また、向かいには「老人憩いの家」があって、地域との交流にも取り組みやすい環境でもある。地域の行事に事業所からも参加したり、事業所の広報誌を地域に回覧したりして、交流に積極的に取り組んでいる。安全対策については、対策会議を系列の特別養護老人ホームと合同で実施し、安全に関する研修を職員全員が受講しているほか、リスクマネジメントに関して外部アドバイザーから指導助言を受けている。看取りは行っていないが、医療介護の連携体制を整えており、安心して生活できる環境が提供されている。一人ひとりの個性を重んじ、その人らしい生活が送れるような対応に心掛け、利用者が楽しんでもらえるよう月1回のペースで行事を企画したり、スーパーで好きなおやつなどを購入する「買い物レク」を実施したりしている。普段過ごしているリビングではユーチューブを使って軽体操を行ったり、昼食時には軽音楽を流すなど、何気ない日常の中にちょっとした気持ちの変化をもたらすような働きかけを試みている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の見やすい場所に理念を掲示している。また、意識づけの為に身分証に入れて持ち歩きいつでも確認出来る様にしている。理念に基づいたケアのあり方に近づける様にカンファレンス等、話し合いの場では統一を図っている。	「利用者の尊厳」を中心に据えた法人の理念とともに、開所時に職員間で作成した「利用者の意思、当たり前の暮らし、地域とのふれあい」を旨とするユニット理念に基づいたケアの実践に取り組んでいる。理念を掲示したり、携帯しているほか、カンファレンスではケアの方向性を理念と重ね合わせ、職員間で共通認識を持つようにしている。	前回の評価後に目標達成計画を作成し、理念に沿った支援についての具体的な目標を掲げ、毎月振り返りを行うこととしておりましたが、これは理念を実践の中で展開する上でも有意義であり、引き続き取り組まれることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域行事には積極的に参加している。2か月に1回開催している運営推進会議に参加、施設内の様子について伝えたり、地域の中で入居者様が参加出来る機会には、夏祭りや作品展展示会などに参加している。	町内会に加入し、資源回収等に参加しているほか、事業所の広報誌を年4回閲覧板と一緒に挟んでもらい、事業所が主催する行事等の周知を図っている。事業所の向かいにある「老人憩いの家」は地域の交流の場となっていて、利用者は、さんさ踊りを見学したり、作品展に出席したりして、地域住民とふれあっている。	前回の評価後目標達成計画を作成し地域とのさらなる連携に取り組んでいますが、災害時における地域の協体制の構築について引き続き町内会に具体化をお願いするとともに、地域に回覧している広報誌に事業所や行事の情報のほか認知症のケアや相談対応などのお知らせも掲載し、事業所の強みを地域にアピールしていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は、外部研修に積極的に参加している。地域の方々から認知症の事で悩んでいる事があれば、耳を傾け助言や認知症カフェなどにて相談を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、具体的な日々の活動状況の報告を行いながら、日常の介助方法について困っている事を等について助言を頂きながら取り組みケアに繋げている。	会議のメンバーには、利用者代表、家族代表、地域代表、市職員、地域包括支援センター職員、民生委員も入っていて、2か月に1回「老人憩いの家」で開催している。会議では、毎回事業所の行事等の状況報告のほか、ヒアリハットの状況と対応策が詳細に示され、丁寧な質疑応答や積極的な意見交換がなされている。職員には議事録を回覧したり、カンファレンス等にて口頭で周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村の方にも出席して頂き事業所で行っているサービス等の実情を報告しながら助言を頂いている。	市介護保険課の職員が運営推進会議に出席しており、その際情報交換や相談助言を受けることができ、連携が図られている。市への届け出等の書類については、法人本部が対応している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、開催している安全対策委員会の中で取り上げ、身体拘束等の適正化を図る為の検討会を開き、定期的に確認と理解を深めている。	法人として毎月安全対策委員会を開催し、管理者が委員として出席して褥瘡、リスクマネジメント、身体拘束等の検討を行っている。その内容は事業所の全体会議やユニット会議で職員に周知し、身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束に関する研修は年2回実施し、その中でグループワークによるスピーチロックの研修も行っている。また、リスクマネジメントについて外部アドバイザーから助言指導を得ている。日中玄関は施錠せず、入居したての利用者で外に出たくなる人には、近くの高松の池などにドライブに連れて行ったりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した職員を中心とし、内部研修を行う事で、職員全員が身体拘束について学ぶ機会を設け、確認を行っている。また施設内で問題が生じた際には、施設全体・ご家族で共有し解決策を検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議に参加し話し合いを実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネージャーが窓口となり契約、解約を行っている。入居の際にはご本人、ご家族の方に不明な事は無いか確認しながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々の生活での会話から話をきいたり、面会に来られたご家族様の意見や要望を運営推進会議にて反映させている。	日常の家族との連絡はLINEや電話で行い、そこでのやり取りの中で要望や意見を把握している。また家族が通院付き添いで来所の際にも直接聞いている。さらに年1回匿名の家族アンケートを実施し、そこには自由記載欄も設け、意向を確認し対応している。毎月利用者の様子をお知らせする写真とコメントを家族に送っているほか、年4回広報誌も一緒に送付して家族から話しが出やすいようにしている。	

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議、ユニット会議や問題がある時には話し合いの場を設けて話し合っている。実施してみてどう反映されているのか確認を行っている。	日常の業務において、職員と話し合う中で出される意見を聞いて対応している。また、ユニット会議で出された意見・要望は事業所全体の会議で検討し対応している。その中で運営全体に関するものは管理者が出席する月1回の法人会議で検討し対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	相談できる体制があり、問題が合った時には労務士に相談を行える。常に相談できる環境があり、資格取得等の情報も共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、実践者研修、法人内外での研修等があり、参加できる環境にいる。当日、研修に参加出来なかった職員にも後日、資料を配りどんな研修に参加したのか分かる様になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県高齢者福祉協議会中央ブロック高齢者福祉会に入会しており、外部研修に参加し他施設の職員と情報を共有する事で質のサービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査でご本人、ご家族様から生活歴や現在の状況を伺い情報を記録、職員との情報共有を行っている。共有した情報をいつでも見ることが出来き意向に沿っている確認をしながら行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人だけでなくご家族様の不安に思われている事などを伺い要望に基づいたサービスに努めている。入居後にもご家族様の方には、こまめに情報をお伝えしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の要望に基づきサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状況に合わせて出来る事を見極め無理のない範囲で職員と一緒にいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診の際には、日頃の様子をお伝えしたりし、新しい情報には他職員にも申し送りにて情報共有をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会できる機会が少なく、オンライン面会にて対応を行っていた。第5類に引き下がった事でマスク着用し感染対策を行いながら少しずつ面会を行っている。手紙にてやり取りをされている方もいる。	家族との面会は、コロナ禍のため予約により玄関先で行ってきた。オンラインでの面会を行っている遠方の家族もいる。友達から手紙が届く利用者もいるが、多くは月1回訪問する理容師が新たな馴染みの人となっている。馴染みの場所である盛岡八幡宮や高松の池にドライブした際には、利用者は喜び懐かしんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性や利用者同士の相性を把握し利用者同士がお互いに関り合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて電話、ライン等で情報提供している。		

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で希望や意向を聞き出し、把握し希望に沿ったケアを行える様に支援している。	日常のケアの中で利用者の意向を確認し、利用者の意思決定を尊重している。言葉で表現できない利用者には、表情や動作で読み取る努力をしたり家族から情報を得たりして、本人の思いを把握するよう努めている。職員間で情報を共有し、利用者の意に沿ったケアができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からの情報に加え入居後にもご本人、ご家族様から得た情報の共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動等をケース記録に残し職員間で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてカンファレンスを行う。現状に即した介護計画書作成時にはご本人、ご家族様の意見、意向を反映させている。	介護計画は、新規の場合は作成後2~3か月で見直し、状況が落ち着いたら6か月後に見直しを行っている。モニタリングは職員全員で行い、ケアを実施していく中で対象の利用者で気づいたことなどを記載し、それらを基にカンファレンスを行って介護計画を作成し、家族に説明し、同意を得てケアにつなげている。	モニタリングに当たっては、介護計画の目標を意識して観察したことを軸に情報を共有することで、より利用者の状況に即した計画の作成につながります。利用者の日常生活などをより効果的にモニタリングし、介護計画の目標達成状況やサービスの実施状況をより適切に評価できるよう、モニタリングの様式などを工夫してみようを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に残す。申し送りも正しい情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族様の状況に応じて支援する。緊急の際には職員が付き添いを行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、外出できる機会が少なかったが、おやつの買い出し、散歩、地域の夏祭りに参加し交流する機会も少しずつ増えて来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医には日々の生活の様子を情報提供書にて伝え家族には受診に来られた際に伝えている。家族が対応出来ない時には職員が付き添い送迎し対応をしている。通院が困難な方へは往診にて対応している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診しており、かかりつけ医が入居前と同じという利用者が15名と多く、家族が通院介助している。家族が付き添えない利用者は訪問診療を受けたり、通院介助のヘルパーを利用している。受診の際、利用者の状態を記載した書面で家族・医療機関と情報を共有している。また、体調が気になる場合には系列の特別養護老人ホームの看護師に相談し、指示を受け対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の常勤の看護師に連絡し相談、指示を受けられる事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の地域連絡室との関係を築き連絡を取り相談しやすい環境作りをしている。入院の際には看護サマリー等で情報共有を行う事で安心出来る様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化時にはご家族様に連絡をし報告、相談をしている。必要時には医療機関を受診に繋げている。その後の方向性についての共通認識を持つように努める。	入居時には、看取りはしないという方針を説明し、利用者や家族の了承を得ている。医療行為が継続して必要になった場合や看取りが近づいてきたと判断される場合のほか、介護度が上がった場合には、事前に家族に説明し、病院、施設等への入院、入所の支援を行っている。	看取りはしない方針とはいえ、利用者が急変する状況に遭遇することもあり得ます。重度化した場合や終末期の支援について、一定の理解を深める研修などを行っておくことを期待します。

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、発生時にはマニュアルに添い対応を行う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を利用者と一緒に行っている。防災意識を高める為に、食事の際に非常食を職員も一緒に食べる。非常食の保管についても職員も場所の把握に努めている。	火災の避難訓練を年2回実施し、そのうち1回は夜間想定の実践としている。避難場所は、中庭、次に向かいの「老人憩いの家」である。消防署立会いの訓練では、利用者の退避の仕方について助言をもらっている。地域との協力体制については、町内会へ協力を依頼しているが、町内会では現在災害対応を検討しており、具体的実現にはまだ至っていない。非常食等は系列の特別養護老人ホームに備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し言葉かけもプライバシーや尊厳を傷つけていないか気を付けながら行っている。	利用者を人生の先輩として尊敬の念をもって、丁寧な言葉遣いで日々のケアに当たっている。排泄時や入浴時などでは、プライバシーや羞恥心への配慮に心掛けている。研修会でもスピーチロックを取り上げ、グループワークを通して学びを深めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉を理解し受け止め、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に希望に添ったケアを行う事が出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前にて整容、整髪。ご自身で身だしなみを整えてもらえない時には、手伝いを行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し季節を感じてもらったり、食べにくい方には一口サイズにて対応。咀嚼しにくい方へはムース食にて対応している。食事作りやおやつ作り、食器洗いを一緒に行っている。	朝食と昼食は配食サービスを利用しているが、夕食は献立を管理者が作成し、職員がスーパーで食材を購入し調理している。利用者は、スーパーに職員と一緒に買い物に行ったり、盛り付けや食器洗いを手伝ったりしている。敬老の日などには行事食も提供して、いつもと違うハレの食卓作りを行っている。食事の際にはユーチューブから軽音楽を流し、ゆったりした気分で食事を楽しんでもらえるように心がけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取された量を把握し記録に残している。月1回の栄養会議にて食事や水分について話し合っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声掛けにて口腔ケアを行っている。介助が必要な方へは職員が仕上げ磨き等支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録に残し記録している。適時のトイレ介助以外にも行動に落ち着きがない時には声がけにてトイレ誘導を行っている。必要な方には一部介助にて行っている。	記録による排泄パターンや落ち着きない行動などを確認しながら声をかけ、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。声のかけ方も職員間で情報共有し、利用者の意図を汲み取れるよう心掛けている。多くの利用者は、自立してトイレで排泄できたり、声掛け誘導により一人でトイレで排泄できる状態にあり、一部介助が必要な利用者は少ない。多くは昼用パットを使っているが、一部夜間に夜用パットを用いる利用者もあり、事前に家族から了解を得て準備してもらっている。ポータブルトイレの利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を確認しながら下剤の調整を行っている。水分を多めに摂取してもらったり、腹部マッサージ、体操に参加してもらっている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、一人一人のタイミングで入浴できるようにし、拒否があった際には無理をせず、希望の日に入浴日を変更している。	入浴は原則として週2回午後の時間帯に行っているが、希望により午前時間帯の入浴もある。職員と1対1になるため、昔話を懐かしんでも利用者もいて、ゆったりした気持ちで入浴できるよう心掛けている。また全身観察の場でもあり、気になることは系列施設の看護師に相談し、助言を受けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠が強い方には無理をせず、居室にて休むように促したりし休息を取って頂いている。夜間帯にも必要に応じた対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に受診後のお薬情報が入っており、必要時には確認を行える。服薬についても職員間で内服忘れがないか確認を行い支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の個性に合わせて得意な事、好きな事などで楽しんで頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スーパーへの買い物支援、近所を散歩、歩けない方へは車いすにて対応しドライブにて外出を行った。	週2回食材購入の際、順番に利用者も1人ずつ職員と一緒にスーパーに出かける「買い物レク」を実施している。また、年間を通して桜・紅葉の花見ドライブ、系列施設で行われる「ちゃぐちゃぐ馬コ」の見物、「老人憩いの家」での夏祭りや作品展覧会の見学、敷地内でテントを張った夏まつり、花壇の花植えなど、メリハリのある生活が送れるよう、外出支援に努めている。	前回の評価後、毎月外出の機会を設ける目標達成計画を立てていますが、引き続き、気分転換や五感刺激のため、天気の良い日には、散歩や買い物などで外に出かける機会をより多く作っていかれるよう期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持している利用者はいないが、お買い物レクとして近くのスーパーまで職員と一緒に買い物に行き、おやつを購入を行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム さくらぎ (ユニット②)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	オンライン面会や手紙が書ける方は返事を書いたり支援を行い出来ない方には職員が代筆を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等の共有スペースは職員が清掃を行い快適な生活を送れるよう空調の調整を行っている。採光については、眩しい時にはカーテンにて遮光を行っている。	共有空間は、温度、湿度、採光などが過ごしやすく調整されており、清掃も行き届き、快適に暮らせるように環境が整備されている。食堂兼リビングには、テーブル、椅子、テレビ、ゆったりできるソファがあり、利用者はレクリエーションや作品作りを楽しんでいる。職員と一緒に作った季節感を取り入れた作品はホールに飾られている。	前回の評価後に目標達成計画を立て、日々の生活の中に庭での外気浴やお茶の時間などを取り入れることにしていますが、引き続き、生活に変化や楽しみを作るこのような取り組みを行うことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中でテーブルに座られる席の配置について工夫し安心して過ごせる様な環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前より使用されていた使い慣れた物を使用され居室内に置いて安全で安心してもらえる様に支援している。	居室にはベッド、クローゼット、エアコン、洗面台が備え付けられている。利用者によってはテレビ、ラジオ、使い勝手のよい日用品などを持ち込んでいる。居室の入口には、利用者にわかるような写真等の飾りつけが目の高さであり、自分らしさを表現している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	自尊心傷つけない様にご自身で行える事をして頂き自立した生活を送れる様に支援している。過度の介入にならない様に居室、トイレなど場所の目印や名前を分かりやすくしている。		